

皆さん、ただ今ご紹介いただきました自民党の谷垣禎一です。

このところものすごい暑さですね。その中で私達の訴えに汗をかきながら、耳を傾けていただきまして心から御礼を申し上げます。

私は、実は正直に申しますと、このところ内心焦っております。何を焦っていたのか。ご承知のように菅総理はようやく国会でも次の代表が決まったら自分は総理を辞めることを明言されました。ところが、なかなかここまでたどり着くのに時間がかかったのです。私達は菅さんではとても復興は進まない。これからの日本の景気回復も再建もできない。こう思いましたから6月2日に不信任案を出しました。まあ、なんとかひょっとしたら通るかなというところまでいったのですが、ちょっと何か、菅さんの言葉のあやに騙された人たちもいたのですね。その結果ズルズル、ズルズル菅さんは居座られた。

何が心配だったのか。今、日本の外交関係も全然動いてないのです。例えば今、中東へ行きますとリビアでもエジプトでも、今まで独裁政権が支配していた。そんなのでは困ると言うので反体制運動やなんかいろいろ起こっている。そういう国々の中で、自分たちが頼りにしたらいいのはどの国なのだろう。あの国はちゃんとやってくれるのか。この国はちゃんとやってくれるのか。そういう中で目ざとく動いているのが例えば中国です。あるいは韓国です。しかし日本の姿が全然見えないね。あんまり私たち中東に関心がないのでしょうか、こういうことをそういう国々の方が仰る。私は何人もの大使からも直に聞きました。どうも民主党政権になってから我々の国に関心がないようだ。こういうお訴えを聞きました。こういう状態がいつまで続くようでは、これは外から日本がおかしくなってしまう。一番日本の大事な同盟国である米国との関係。日米首脳会談は本来6月に行われなければいけなかったのです。だけど、延期になりました。それは米国が菅さんと話しても普天間の問題だっただけで何だっただけで実質的に進むわけがない。そういう会談をやっても無駄である。こういう判断をしているわけですね。このままいったら日米関係もどうなるか。何とか菅さんに一刻も早く辞めてもらわなければならない。これが一つです。

それから二番目。やっぱり震災の復旧復興。もう本当に待たなしですよ。これは政府の試算でも20数兆円のお金がかかる、こういうことになっている。私達もやっぱりそのくらいのお金がかかると思います。じゃあ本格的に復興の予算を作るなら、その財源をどうするかとしっかり決断できなければいけません。しかしこれだけのお金を用意するというのは生半可でできるわけではないのです。やっぱりトップリーダーがおれは断固としてこういうことで財源を作ってやり抜くぞという、そういうトップの決断がなければいけない。そうしてそのトップの決断を受けて、このトップで戦おうと思っている政治家達が、なるほどトップがそういう判断をしたから我々もそれを支えていこう、こう思わなければ復興の財源なんてできないのです。今、いくら菅さんが号令をかけても民主党の国会議員達が様々な異論を唱えてまともならない。そんなことでは復興の予算が組めるはずがないのです。それだけではありません。来年度の予算編成。今までもマニフェストで無駄を省けばいくらでもできると言っていて、無茶なバラマキを約束してきたけれども、それができないことはもうはっきりしてきた。こういうことをすべて整理するのは菅さんの下ではできない。このまま菅さんに続けさせたら復興もできない。国際関係もおかしくなる。そうして日本の明日も開けない。私達は確かに不信任案という武器

は使ってしまった。後は民主党の中でこれではダメだと思う人たちの努力に任せなければならないと思っていたけれども、それだけではダメだという焦りを持っていたのです。

この間、菅さんが退任の為の3条件を出しました。二次補正予算を通すこと、それから特例公債法を通すこと、再生エネルギー法案を通すこと。これは菅さんが勝手に言った理屈です。だけれども、確かに菅さんが勝手に言った理屈ではあるけれども、何とかして菅さんに退陣をさせたい。私達も必死で努力をいたしました。その結果、例えば公債特例法。私達は今まではこれに反対していたのです。なぜ反対していたのか。マニフェストで子ども手当だ、農家の戸別所得補償だ。高等学校の無償化だ。高速道路の無料化だ。耳触りのいいことをあれこれぶち上げて、その財源は無駄を省けば出てくると言っていたのに出てこない。しかし約束したことは約束したことだから借金をしてやらせてくれ。その借金の許可をするのがこの法案ですね。今の日本は税収が少ないです。借金をしなければやれないことも確かです。だけど少なくともその無駄遣い、バラマキはやめてこい。それでなければ賛成できない。こうやってきたのです。さてそれが退任の条件だと言われると我々もほとんど困ったのです。しかし、岡田幹事長と石原幹事長、玄葉政調会長と石破政調会長、相当ギリギリの話をしていただきました。その結果、玄葉さんは最後腰が引けてしまったのですけど、岡田さんは、分かった、とやっと言って実質上自分たちのマニフェストがいかにも根拠を欠いたものであったかということで、白旗を掲げて、もう子ども手当は来年からはやりません。そして高速道路の無料化も来年は予算をつけることはやめます。高等学校の無償化あるいは農家の戸別所得補償ももう一回よく検討してやり直しをいたします。つまり実質上、白旗を揚げました。

それからもう一つ。私たちが大事だと思いましたが、今、ヨーロッパであのギリシャの大変な財政の危機からユーロ全体がおかしくなっている。ガタガタになっている。それから米国も財政の規律が失われて、借金漬けの体質になって、それをどうするかという論争から、ひょっとしたらアメリカはもう支払いが不能になるのではないかとみんなが恐れた結果、ドルの格付けも下がってしまいました。そういう中で日本もそれほど今胸を張れる状況ではないのですが、相対的に安定しているのは円だということになり、円がどんどん、どんどん高くなっています。そういう不安定な状況の中で、民主党内閣が作った予算のできはよくないけれども、しかし現状で武器となるのはあの予算しかないから、その予算の歳出するためには歳入がなければなりません。借金もある程度しなくてはならない。我々も大変な世界の経済危機が起った中で、それを認めて全体の経済情勢に安定をもたらすことも考えなければならない。こういうことで私どもは渋々ではありますが、この法案を通すことにいたしました。そして何とか菅さんの退陣にレールが敷けたと思っております。

実はですね、私自身、こうやって菅さん批判してますと、正直言うとうんざりしているのです。もう言いたくない。だからあちこち行きますね、言われることは自民党だったらどうするかということをもう少し語れと、いろんな方に言われます。それでですね、震災の復旧復興というのは瓦礫の処理を早くやらなければならないとか、あるいは、東北地方で水産業がめっちゃくちゃになってしまった。その水産業をどうして立て直すか。あるいは商店街の方々が借金をしてせっかく自分の店舗を作ったのに津波で全部やられてしまった。借財だけが残っている。「もう一回借金をして、やるのかあ」「それはとても元気が出ないなあ」こう思っている方も沢山いる。街を再興するためにはそういった

方々がやる気を起こしてもう一回自分の店を立て直そうと思わなければ、再興はできないですよ。どうするか。こういう課題とそれに対してどう対応していかなければならないかなどというのは細かなところでは違いがありますが、本当のところ与党と野党でそんなに違うわけではありません。ところが我々がいくら提案しても、577項目にわたる提案を官邸に持っていっても、あるいは予算を協力して成立させても仕事が進まない。なんなんだということになります。それは政治家の数は限られているのです。公務員は沢山いるのです。政治家が決めたことを公務員が頑張ってやろうという風にならなければ実行ができないのです。また現場、現場のいろんな状況も政治家だけで全部吸い上げようといっても無理があります。それぞれの地方公共団体や中央省庁の窓口が吸い上げてきたことをうまく政策にしていかなければいけない。それが全然動いていない。だから自民党がもう一回政権を取り戻すことができたなら何をするのか。政策の中身も大切です。しかし今日皆さんに私がお訴えしたいことは、政治は政策だけでは動かないということを申し上げたいと思うのです。どういうやりかた。どういう手口。どういう手続きをもってやっていくかということが大変大事なのです。私どもがもう一回政権を取り戻すことができたなら、日本中のお役人に「君たち国民のことを考えて、一歩前に出て仕事をしろ」まずそうやって士気を高めるところから始めなければならないのではないかと私は思っております。そして、私たちも途中でやり方を変えました。いろいろやれやれと言ってもやらないから、さっき申し上げた瓦礫の処理であるとか、債務を二重に抱えておられる方の苦労とか、こういうのはどンドンどンドン自民党や野党で議員立法にして通してしまおう。幸いなことに今参議院は、野党の方が数が多いですから、野党が団結して復旧復興のためにこういう法案を通さなければということができれば通すことができます。そうしてその中身がなるほどこれは被災地の方が待望しているものだということであれば衆議院に持ってきて多数を占めている今の政権政党も反対ができない。だからそういう手法で外堀から我々の考えていることをやれるようにしようという風に、まあ、作戦を変えたんですね。そういうことによって瓦礫の処理のやり方とか、さっきの二重債務の問題とかだいたい進んできたと思っております。そして、最後に考えなければならないことは、私たちの国は、日本国民というのはたいしたものだという国民に対する尊敬と信頼ということを政治の基礎におかなければならないと思います。日本もそれは欠点がたくさんあります。しかし今度の大震災で世界中の国が日本に感心したことがあります。これだけの辛い目に遭いながら日本人は冷静にことに対処しようとしている。本当にけなげな国民だ。このことは世界からほめていただきました。ほめていただいたからといって喜んでばかりはいられませんけれども、私もそれはそうだと思います。被災地にはどこでもそれぞれの地域で、たとえば自分たちの地域を再生するためには避難するにしてもばらばらに避難するのはやめよう。できればこの集落はみんなでまとまって避難をしようというようなことを提案する人が必ずいます。そういう人が提案すると、ではまとまって避難すると言ってもどこに行ったらいいのだろう。そうすると、いやこの集落みんなでまとまって避難するにはあそこの土地がある。あの土地しかない。地主に俺が話しに行こう。話しに行ったらなるほどそうだ俺たちの集落がばらばらにならないためには当分の間俺がただあの土地を貸してやるからみんなそこに住んで頑張ろう。こういう自然発生的なリーダーシップ。頭の中で、本で読んだ、学者が議論した、というだけではないそれぞれの地域の実情に根ざしたリーダーシップがたくさん、日本人はそ

いうところ本当にすごいです。だから最後は日本のこの再建再興、これは自分だけよければいいわけではない。そして自分のことは自分でやっという日本人の気持ちを最大限引き出さなくてはなりません。子ども手当だって、子供は社会で育てるということで、お金持ちにも、あるいは懐具合のさびしい人にもみんな一律に国がお金を届けるなどということでもいいのかという主張を我々はしてきました。やっぱり頑張れる人は子供は自分でまずしっかり育てていく。子供は家庭で育てるものだ。そしてそれではなかなかできない方にはやはり政治がバックアップをしていく。こういう順序を踏まないからおかしなことになってしまう。私どもは自民党だったらどうすると言われた時にもう世界中のことを言い出すと言うことは沢山あります。しかし根本は頑張れる人たちに頑張ってもらおう。そしてなかなかそうはいかない、いろいろな社会の事情でうまくいかない方もおられます。そこには政治がしっかりバックアップをしていく。こういうことで組み立てていく以外にはないと私は思っております。自民党はこういうことで新しい政策をどんどん打出して行きたい。このように思っております。

そして最後にひとつ申し上げたいことがあります。こうやってマニフェストを改めるようなことで与野党一緒になって協議をしました。そうすると気の早い人はすぐに「大連立は組むの」などと質問をするのです。だけど今衆議院の選挙は小選挙区ですよ。小選挙区だということは大概のところ自民党と民主党が戦っています。だから政治の基本は自民党と民主党が政策でどう違うかというところで政治の枠組みが決まっているのです。その自民党と民主党が大連立を組んでしまう。復旧復興では確かにあんまり違いはありません。だからこの限りで見れば協力できることは山ほどあります。ほとんどが協力できると言っていい。だけど、沖縄の普天間の基地はどうするのか。最近でこそ民主党の言っていることは我々の言っていることにだいぶ近づいてきましたけれども、その根底にある発想とか日米安全保障をどう考えるかというところは大きく違います。そういったところまで含んで全部一緒にやるというのはそもそも無理がある。だから小選挙区の下では大連立というのは例外中の例外だと考えなければなりません。だから私どもの基本も、復旧復興に関しては野党の分を守って閣外できちんと協力をしていく。だけど外交政策やその他の政策で考え方が違うところがあるから、そこは是々非々で行くのが基本だ。私はこのように思っております。ただ、私どもも一体民主党の次の代表がどなたになるのか、どういう政策を掲げて、またその方がどういう政治手法で望もうとされているのか。これはよく注視していかななくてはならないと思っております。どなたが次の代表になり、そして総理になるかによって信頼関係のあり方というものも違ってくると思います。協力の度合いというものも違ってくると思います。私どもは、基本は先ほど申し上げたようなことですが、やっぱりそういうこともよく見ていかなければならないと思っております。

そしてこういう中で民主党があつた二年前の総選挙で国民との契約だとまで言ったマニフェストの主要部分。これについては白旗を上げられた。本来から言えばこれは国民との契約ということだったので、もう契約が実行できないということになれば、もう一回解散をして信を問うというのが私は正しい道だと思います。しかし今の震災地の復旧復興の状態を考えると今日急に解散しなさいというわけにはなかなかいかない。だから準備が整ったらできるだけ早い機会に解散するべきだと私どもは主張しているわけです。また彼らが考えてきた政策はもう白旗を掲げてしまい、そして新しい政

策も推し進めていく力も気力も自分たちにはないということであれば、憲政の常道に従って野党第一党に政権を譲り渡すべきだと、このようなことも主張していかなければならない時がくると思っております。私どもはそのために全力を挙げて頑張ります。

どうぞよろしくお願いを申し上げ、そうして酷暑が続いております。どうぞ熱中症等十分注意をされて頑張ってくださいように心からお願いを申し上げて私の話を終わらせていただきます。

有難うございました。